

子どもの保健Ⅰ

子どもの健康と安全を守るために



編著 日本保育園保健協議会、浜町小児科医院
 横浜女子短期大学保育科
 社会福祉法人キャマロード
 重症心身障害児者在宅支援多機能施設みどりの家

著 日本セーフティプロモーション学会
 Safety Kidsいずみ
 神奈川歯科大学学生体管理医学講座

遠藤郁夫
 曾根真理枝

三宅捷太
 稲坂 恵
 太田由紀枝
 松澤直子

保育士養成施設のテキストに最適

B 地域の保健活動

① 子育て支援のはじまり

●母子健康手帳の交付

子育て支援は、いつからはじまるのでしょうか。それは、産婦人科などで、妊婦しているかどうかの検査をした結果、「陽性=妊娠している」と判断されたときです。

妊娠がわかったら、市区町村役場の担当窓口で、母子健康手帳が手渡されます(図1-7)。最近では、事務的な手続きにとどまらず、保健師や助産師などの専門職が申請者とできるだけ話をできるようにしています。相手の立場を尊重してコミュニケーションをとり、本人や家族の状況を知ること、必要に応じた適切な支援が開始できます。そして種々の相談・妊婦健診そして両親教室への参加、産婦人科での無料健診を紹介し、参加を促します。とくに両親教室では、妊娠中の生活の工夫・赤ちゃんへの接し方・経済的なことも含め、実技を交えてわかりやすく伝え、参加者の理解が深まるようになっています。最近では、地域の民生委員・児童委員の紹介をしたり、赤ちゃん教室と同時開催で、先輩ママとの出会いをコーディネートするなど、いろいろな配慮がなされるようになってきました。

●出産後の訪問

赤ちゃんが生まれると役所には出生届が提出されます。母親がマタニティブルーになるケースは、一時的なものを含めると大変なため、新生児訪問が行われることは大きな意味があります。新しく



図1-7 母子健康手帳

す。この場合、症状が出た園児をいくら長く休園させても、流行を抑える効果はほとんどありません。ほかの元気が不顕性感染児によって流行は拡大してしまうのです。したがって、回復して元気になった児は、なるべく早く通常の保育生活に戻すべきでしょう。

C 知っておきたい子どもの感染症

子どもの感染症のおもなものを図3-2にまとめました。

●麻疹(はしか)

3~4日発熱があり、その後全身に赤い発しんが出る。その後も発熱・せきが続き、いつものかぜとは違う重症感がある。肺炎の合併が多く、まれに脳炎も起こることがある。予防接種が有効だが、2回以上の接種が必要。発熱のめやす：発熱した後3日を経過してから。



●インフルエンザ

突然高熱ではじまり、せき、鼻水などかぜの症状を伴う。流行期には必ず発熱が続くが、夏や秋では必ずしも発熱することもある。よく効く治療薬もあるため、早めに治療を受ける。発熱のめやす：発熱(発熱)後5日が経過し、かつ解熱後3日を経過してから。



●風しん(3日ばしか)

発熱に伴って細かい赤い発しんが全身に出る。首のまわりのリンパが腫れる。風しんのような重症感はない。ただし、妊娠初期の妊婦が感染すると胎児に先天性風しん症候群(p58参照)が発症する確率が高くなる。予防接種が有効だが、2回以上の接種が必要。発熱のめやす：発しんが消失してから。



●水痘(みずぼうそう)

赤いかゆみの強い小さな水疱が全身に出る。手のひら、足の裏など強い皮剥けにはあまり出ない。熱を伴うこともある。発熱のめやす：すべて発しんが顕在化してから。



図3-2 知っておきたい子どもの感染症

B5変型判 / 2色刷 / 214頁 / 定価(本体2,100円+税) / ISBN978-4-7624-0880-9 (2013.3/1-1)

病気や事故、虐待などさまざまな問題から、子どもたちだけでなく保護者をも温かく支援するという視点で書かれた「心を育てる」テキストです。

目次

第1章 子どもの健康と保健の意義

- 1 保育における保健活動
- 2 健康の概念と健康指標
- 3 子育て支援の現状と地域保健活動

第2章 子どもの発育・発達

- 1 ヒトの成り立ち
- 2 身体の発育
- 3 生理機能の発達
- 4 運動機能の発達
- 5 精神機能の発達

第3章 子どもの健康と疾病

- 1 子どもの健康
- 2 子どもの疾病① 感染症
- 3 子どもの疾病② アレルギー疾患
- 4 子どもの疾病③ 口と歯の健康
- 5 子どもの疾病④ 先天性疾患
- 6 子どもの疾病⑤ そのほかの疾病
- 7 疾病の支援体制
- 8 予防接種

第4章 子どものこころの健康

- 1 家族の存在と生活環境

2 子どものこころの病気とのかかわり方

第5章 保育所をとりまく安心・安全の環境整備

- 1 保育現場の環境整備
- 2 食の安全と衛生管理
- 3 安全対策と危機管理の事例と実際
- 4 「虐待」—この現代的問題に立ち向かう

第6章 健康および安全への取り組み

- 1 保育所保育指針のめざすもの
- 2 健康への取り組み
- 3 安全への取り組み

資料編

なぜ
起こる

乳幼児の 致命的な事故



監修 大妻女子大学大学院 日本セーフティプロモーション学会 反町吉秀
執筆 理学療法士 日本セーフティプロモーション学会 稲坂 恵
イラスト 久保田修康

子どもの事故は
予防できます！



A5判 / 2色刷 / 97頁 / 定価(本体1,200円+税)
ISBN978-4-7624-0881-6(2013.11/1-1)

2. 子どもの身体特性と起こりやすい事故

乳幼児の身体は3頭身～4頭身で、重心が高い位置にあることが特徴です。また、著しく発達をする脳は、大人より多くの酸素を必要としています。これらの身体特性と、乳幼児に起こりやすく、重症化し、ときに致命的となる事故について、図↓にまとめました。

皮膚が薄い
けが・やけどは重症化

筋力が弱い
転ぶ・落ちる・喉に詰まる(窒息)

乳児は手足を自由に動かせない
4か月くらいまで
口や鼻をおおうものを
払いのけられない(窒息)

表面積が小さい
けが・やけどは
広範囲

脳の外層(硬膜)の血管が多い
大きな外力で出血する
(硬膜内血腫・硬膜外血腫・網膜出血)

脳が必要とする酸素が多い
すぐ低酸素脳症になる
(窒息・溺れ・火災)

頭が重い
頭から落ちる(転落)
縁にからだを付けてのぞき込むと頭からストンと落ちる(転落)

頭が大きい(重心が高い)
バランスが悪く転ぶ(転倒)

視野が狭く反応が鈍い
交通事故ぶつかる

呼吸数が多く気道が狭い
異物が喉に詰まる(窒息)

子どもの身体的特性

⑩ 子どもの発達 21

主要目次

- I 東日本大震災 事故予防に活かしましょう
- II 暮らしの危険 安全面から考えてみましょう
- III 不慮の事故 まず知りましょう
- IV 子どもの発達 事故との関係を学びましょう
- V 子どもの事故実態 現実に向き合いましょう
- VI 致命的な事故 過去事例に学びましょう
 - ①歩行中の事故 / ②自動車同乗中の事故 / ③自転車同乗者の事故 / ④高所からの転落事故 / ⑤投げ出されての転落事故 / ⑥転倒事故 / ⑦はさまれ事故 / ⑧密閉された場所での窒息 / ⑨口や
- VII 最近の子ども事情 大人の責務を考えましょう
 - ⑩鼻がふさがれた窒息 / ⑩首が絞められる窒息
 - ⑩喉に食べ物などが詰まる窒息 / ⑩誤飲 / ⑩水の中へ転落するおぼれ / ⑩水の中にいるときのおぼれ / ⑩火災 / ⑩やけど / ⑩熱中症

日本図書館協会選定図書